

ケアマネジャーアンケート調査 結果概要

1 調査概要

(1) 実施概要

調査対象	市内の居宅介護支援事業所に所属しているケアマネジャー
実施方法	電子メールによる配布、WEB アンケートによる回答
実施期間	令和 7 年 12 月 22 日（月）～令和 8 年 1 月 30 日（金）

(2) 配布件数、有効回答件数及び回答率 ※（ ）内は前回調査

調査対象者	有効回収件数	有効回収率
20 事業所 68 件（24 事業所 81 件）	41 件（52 件）	60.3%（64.2%）

2 ケアマネジャーアンケート調査 結果のまとめ

1. 回答者の状況

- ・回答者の年齢構成は50歳代（36.6%）と60歳代（31.7%）で約7割を占め、前回調査と比較しても50歳代以上の割合が高くなっており、年齢層は依然として上昇傾向にあります。（問2）。

2. ケアプラン作成における困難

- ・ケアプラン作成において「困ることがある」と回答した割合は75.6%であり（問13）、前回の82.7%からは減少したものの、依然として高い水準にあります。具体的には、利用者本人やその家族の意向確認や連絡調整等に困難を感じています。（問13-1）。
- ・業務を円滑に行う上での課題として、「ケアプラン作成の事務量が多い（82.9%）」や「ケアプランの変更手続きは煩雑（57.7%）」といった本来業務に加え、「介護報酬に結びつかない業務が多い（43.2%）」といった、いわゆるシャドーワークに課題を感じています。（問15）。

➡ケアプラン作成にかかる事務だけでなく、シャドーワークにかかる負担感が課題となっていることから、それら負担の軽減を図るための取組が必要です。

3. 他機関・団体等との連携について

- ・主治医や歯科医師と連携を図る上での課題では、「多忙で連絡が取りにくい」のほか、「面識がない」が高くなっています。（問21、問24）。
- ・地域包括支援センターに対しては、80.5%が困難事例等の相談経験があり（問28）、そのうち8割以上が解決に“役立った（「役立った」「ある程度役立った」の合計）”と評価しています（問28-1）
- ・地域包括支援センターに機能強化してほしい点として「困難事例への支援の充実（80.5%）」が圧倒的に高くなっています。（問29）。

➡これまでから行っている医師・歯科医師を含む医療関係者等との多職種連携の取組をより一層推進する必要があります。地域包括支援センターについては、資質の向上を図るなど、引き続き機能強化を図っていく必要があります。

4. 高齢者施策全般について

- ・守山市が充実すべきサービスや支援で「住民による助け合い活動の取組」が高く、地域にあると良い活動では、「災害等の緊急時の対応」、「外出時の付き添いや介助」、「高齢者の見守り活動」が高くなっています。（問31、問33）
- ・介護予防・日常生活支援総合事業について、「サービスの選択肢が少ない」が最も高く、今後必要なサービスとして、訪問型サービスD（移動支援）と訪問型サービスB（住民主体による支援）が必要との回答割合が高くなっています。（問34、問35）

➡引き続き、支え合いの地域づくりを推進していく必要があります。

5. 業務負担の現状など

- ・8割以上が業務に「負担を感じる」と回答しており（問42）、主な要因は「作成書類の多さ（75.6%）」「ケアマネジメント業務以外の対応（68.3%）」となっています。（問43）。

➡2. ケアプラン作成における困難と同様、ケアプラン作成をはじめとする本来業務はもちろん、シャドーワークも含めた、ケアマネジャーの負担軽減を図るための取組が必要です。